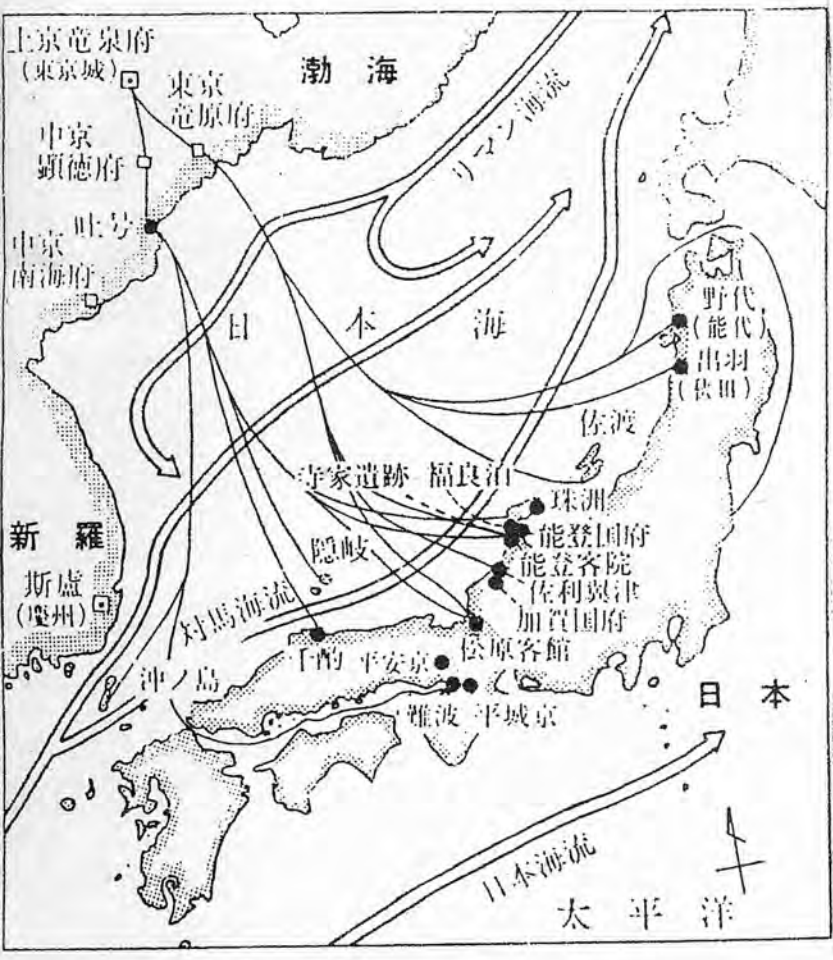


「この地域は手取川の中、上流流域を占め、加・越・美三国に跨る白山の北麓に当たっている、地質は誤って『手取統』として一括されていた。

約一億年前の上部ジュラ紀に属するものが基盤である。

飛騨片磨岩類『少なくとも三億年以上前と称される』を覆って存在し、その上を緑色凝灰岩と呼ばれる中新世中紀(二千五百万年)の火山噴出物からなる沈積岩が相当厚く覆っている。

更に地質時代では、ごく最近である洪積世(約百万年前)に噴出した白山火山、戸室火山等の新期火山岩類が、これらの岩層上に溢流している」と結んでいる。



対岸との交通

五七三年(敏達二年)五月

高句麗の使者、越の海岸に漂着すると伝える。

溺死者が多く、道に迷うことを疑い、供応することなく送還させる。

六六八年(天智七年)

高句麗の使、越路を経て調物を進上する。

七五八年(天平宝字二年)

小野田守と共に来国した、渤海使楊承慶等を越前国に安置する。

七六二年(天平宝字六年)

渤海使と共に来国した渤海王新福等を越前国加賀郡に安置する。